

1109			自己学習・生涯学習	医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する
1110				医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する
1111		③ 信頼関係の確立を目指して	コミュニケーション	言語的および非言語的コミュニケーションの方法
1112				意思、情報の伝達に必要な要素(列挙)
1113				相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なること(例示)
1114			相手の気持ちに配慮する	対人関係に影響を及ぼす心理的要因
1115				相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する
1116				対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる
1117			患者の気持ちに配慮する	病気が患者に及ぼす心理的影響
1118				患者の心理状態を把握し、配慮する
1119				患者の家族の心理状態を把握し、配慮する
1120				患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する
1121				不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する
1122			チームワーク	チームワークの重要性(例示)
1123				チームに参加し、協調的態度で役割を果たす
1124				自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める
1125			地域社会の人々との信頼関係	薬の専門家と地域社会の関わり(列挙)
1126				薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する
1127	イントロダクション	①薬学への招待	薬学の歴史	薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割
1128				薬剤師の誕生と変遷の歴史
1129			薬剤師の活動分野	薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)
1130				薬剤師と共に働く医療チームの職種(列挙)、その仕事
1131				医薬品の適正使用における薬剤師の役割
1132				医薬品の創製における薬剤師の役割
1133				疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割
1134			薬について	「薬とは何か」
1135				薬の発見の歴史(具体例)
1136				化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れ
1137				種々の剤形とその使い方
1138				一般用医薬品と医療用医薬品の違い
1139			現代社会と薬学との接点	先端医療を支える医薬品開発の現状
1140				麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響
1141				薬害(具体例)、その背景
1142			日本薬局方	日本薬局方の意義と内容
1143			総合演習	医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる
1144				身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる
1145		②早期体験実習		以下の例示を参考にして、到達目標を設定し適切に実施する。

1146				病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する
1147				開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する
1148				製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する
1149				保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する

1150	実務実習	実務実習事前学習	事前学習を始めるにあたって	薬剤師業務	医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる
1151					医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割について概説できる
1152					薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する
1153				チーム医療	医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる
1154					チーム医療における薬剤師の役割を説明できる
1155					自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する
1156				医薬分業	医薬分業の仕組みと意義を概説できる
1157			処方せんと調剤	処方せんの基礎	処方せんの法的位置づけと機能について説明できる
1158					処方オーダーリングシステムを概説できる
1159					処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる
1160					調剤を法的根拠に基づいて説明できる
1161					代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる
1162					不適切な処方せんの処置について説明できる
1163				医薬品の用法・用量	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる
1164					患者に適した剤形を選択できる
1165					患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる
1166					患者の特性に適した用量を計算できる
1167					病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる
1168				服薬指導の基礎	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる
1169				調剤室業務入門	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる
1170					処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる
1171					処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる
1172					調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる
1173					処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する
1174			疑義照会	疑義照会の意義と根拠	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる
1175					代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる
1176					特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する
1177					不適切な処方せん例について、その理由を説明できる
1178				疑義照会入門	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する
1179					代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる
1180					代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる
1181					代表的な医薬品について相互作用を列挙できる
1182					疑義照会の流れを説明できる
1183					疑義照会をシミュレートする
1184			医薬品の管理と供給	医薬品の安定性	医薬品管理の意義と必要性について説明できる
1185					代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる

1186			特別な配慮を要する医薬品	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる
1187				麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる
1188				血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる
1189				輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる
1190				代表的な生物製剤の種類と適応と説明できる
1191				生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる
1192				麻薬の取扱いをシミュレートできる
1193				代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる
1194				放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる
1195			製剤化の基礎	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる
1196				薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる
1197				代表的な院内製剤を調製できる
1198				無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる
1199				抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる
1200			注射剤と輸液	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる
1201				代表的な配合変化を検出できる
1202				代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる
1203				体内電解質の過不足を判断して補正できる
1204			消毒薬	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる
1205				消毒薬調製時の注意点を説明できる
1206		リスクマネージメント	安全管理	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる
1207				誤りを生じやすい投薬例を列挙できる
1208				院内感染の回避方法について説明できる
1209			副作用	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる
1210			リスクマネージメント	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる
1211				リスクを回避するための具体策を提案する
1212				事故が起こった場合の対処方法について提案する
1213		服薬指導と患者情報	服薬指導に必要な技能と態度	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームドコンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる
1214				代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる
1215				代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる
1216				インフォームドコンセント、守秘義務などに配慮する
1217				適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する
1218				医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする
1219				患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる
1220			患者情報の重要性	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる
1221				患者背景、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる
1222				医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる

1223				患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる
1224			服薬指導入門	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる
1225				共感的態度で患者インタビューを行う
1226				患者背景に配慮した服薬指導ができる
1227				代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる
1228		事前学習のまとめ	総合実習	代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる
1229				疑義照会をシミュレートする
1230				処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる
1231				処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる
1232				調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる
1233				患者背景に配慮した服薬指導ができる
1234	病院実習	病院調剤を実践する	病院調剤業務の全体の流れ	患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる
1235				病院内での患者情報の流れを図式化できる
1236				病院に所属する医療スタッフの職種名列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる
1237				生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する
1238				医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる
1239				職務上知り得た情報について守秘義務を守る
1240				薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる
1241				処方せん(外来、入院患者を含む)の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる
1242				病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる
1243			計数・計量調剤	処方せん(麻薬、注射剤を含む)の形式、種類および記載事項について説明できる
1244				処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量など)が整っているか確認できる
1245				代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる
1246				薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる
1247				適切な疑義照会の実務を体験する
1248				薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる
1249				処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りぞろえができる
1250				錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる
1251				調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる
1252				代表的な医薬品の剤形を列挙できる
1253				代表的な医薬品を色・形・識別コードから識別できる
1254				医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる
1255				代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる
1256				異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる
1257				毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる
1258				一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる
1259				散剤、液剤などの計量調剤ができる